

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	今井 福司		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、第二次世界大戦後の日本の占領政策の中で学校図書館法が制定される中で、学校教育に資する施設であることが明記され、学校教育の中で学校図書館とはそれを支える基盤とされている。しかし実態は必ずしも一致しておらず、新たに司書教諭となる教員が積極的に実践を展開していく必要がある。そこで、本授業では学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識を身につけ、最終的には学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようにすることを目標とする。そうした能力を身につけるためには、受講者の主体的な学習が欠かせない。そこで授業においては、頻繁に発言を促すので予め留意しておいてほしい。また、後半にはグループ作業の時間をとり、作業を行ってもらった上で発表を行う機会を設ける予定である。なお授業進行の都合上、初回到座席を指定するので、特に初回の遅刻欠席はしないこと。

内容

学校教育における学校図書館の位置づけと、そのあり方について概観しながら解説する。その他、実際に学校経営の中核に学校図書館を位置づけた事例など、具体的な実践例についても紹介していく。授業は基本として以下の構成で進行するが、受講者の反応や希望、展開状況に応じて変更することがある。

(第一ブロック：学校図書館を取り巻く歴史・制度)

1. イントロダクション、学校図書館の現状の確認
2. アメリカ・日本における学校図書館の歴史とその理念・意義
3. 学校図書館関係法規と位置づけ
4. 学校図書館職員の位置づけと司書教諭の任務と役割
5. 学習指導要領と学校図書館

(第二ブロック：学校教育の中での学校図書館の機能)

6. 学校図書館の活動 読書センターとしての活動
7. 学校図書館の活動 学習・情報センターとしての活動
8. 学校図書館の経営 学校図書館経営計画の立案、学校教育計画の中での位置づけ

(第三ブロック：学校図書館実践の提案と評価)

9. 学校図書館の整備 メディアの選択と組織化
10. 学校図書館の整備 環境整備(施設・設備)
11. 学校図書館の評価と改善
12. グループ作業(作業内容については、授業中発表する)
13. グループ作業発表会

(第四ブロック：学校図書館の展望)

14. 情報化社会、生涯学習時代における学校図書館の位置づけ
15. 最終試験

評価

期末試験50点，授業参加および出席状況を50点として評価を行い，60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・北克一編著 『学校経営と学校図書館，その展望』 青弓社 2004

【推薦書】

- ・坂田仰，河内祥子，黒川雅子編著 『学校図書館の光と影』 八千代出版 2007
- ・渡辺信一先生古希記念論文集編集委員会 『生涯学習時代における学校図書館パワー』 日本図書館協会 2005

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」や「インターネット等の電子資料」の種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。

司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。

内容

- 1 授業の進め方と目標(ガイダンス)
- 2 学校図書館の現状
- 3 学校図書館の役割
- 4 学校図書館の運用(事例)
- 5 学校図書館メディアの役割
- 6 学校図書館メディアの種類と特徴
- 7 学校図書館メディアの選択と収集
- 8 学校図書館メディアの廃棄
- 9 学校図書館メディアの組織化
- 10 学校図書館メディアの組織化(演習)
- 11 学校図書館メディアの配置
- 12 学校図書館メディアにおけるコンピュータの活用
- 13 学校図書館メディアにおける著作権法
- 14 まとめ

評価

出席時間や、課題および演習に対する評価、小テスト等の結果で総合的に評価する。

出席で30点、課題・演習で30点、小テスト等で40点により評価を行う。

総合60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化』 青弓社 2003

ほか、授業の中で、その都度挙げて説明していく。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書教諭課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は教育活動を支援し推進するという重要な任務をもっている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を養わせるための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に学習し、あわせて教員に対するサービスと協力についての理解を深める。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の具体的検討(課題調査及び発表)
5	指導内容の具体的検討(課題調査及び発表)
6	指導内容の調査結果の発表・討議
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化(グループ討議)
9	指導内容の体系化(グループ討議)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題の調査および発表30%、授業への出席20%、メディア活用能力育成のための指導案作成および理解度確認のための論述レポート50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』〔第5版〕(全国学校図書館協議会 2006)

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書教諭課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

読書とは、人間が最も人間らしい行為の一つである。特に図書館を基に考えた場合、幼児期から高齢者までを含めてどのような図書館での学習が可能か、まず考えておく必要がある。つまり生涯学習の一環として捉えた後、改めて、学校教育における図書館教育とはどうあるべきかを考えるべきなのである。図書館司書教諭とは単に教育現場で学年や、学校の要請に応えるだけの存在であってはならない。では、どうあるべきか。それを考えるのが本講座のねらいである。

内容

まず、読書とは何かを考える。今日どのような読書環境に子供たちがおかれているのか、そしてどのような書物が読まれているのかできる限り新しい資料に基づいて考察する。次に読書がわれわれ人間にどのような影響を与えるのかを考え、それを基に読書の教育効果について資料を基に考える。現在読書離れが叫ばれて久しいものがあるが、本当に子供は本を読むことが嫌いなのか。これを現場サイドから眺めてみると必ずしもそうでないことがわかる。つまり、「書物」に対する感覚が鈍くなりつつあること、それは情報過多のためではなく、ある種の偏り現象であることが理解されてくるであろう。こうした現象が年々早まっていることを心得ておかなばならない。そして、それと人間のみが持つ心とどのように脈絡付けるのか、それを持って本講座の内容とする。

評価

レポートおよび出欠によって評価する。出席点50、レポート点50 とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストについては講義の折、適切なものを指示する。また必要な読書指導に関する資料、文献を紹介し、自分なりの司書教諭としての自覚と使命を持つ事が出来るよう指導する。

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。

このような学校図書館を運営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする。

内容

1. 学校図書館の情報化の施策の流れ
2. メディア専門職としての司書教諭
3. 高度情報通信社会と学校図書館
4. 情報メディアの発達(演習)
5. 情報メディアの特性と選択(実習)
6. 視聴覚メディアの活用
7. 教育用コンテンツの活用(演習)
8. データベースと情報検索(実習)
9. インターネットによる情報活用(演習)
10. インターネットによる情報発信(実習)
11. 学校における情報共有
12. インターネット利用の光と影
13. 著作権とメディア
14. 演習・実習
15. まとめ

評価

授業内に課する演習(4課題を40%評価)と実習(4課題を50%評価)を評価し、出席状況(10%)を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】井口磯夫編著『情報メディアの活用』樹村房

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳『インフォメーション・パワーが教育を変える』高陵社

堀田龍也著『メディアとのつきあい方学習』ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編『情報倫理学』ナカニシヤ出版

田屋裕之著『電子メディアと図書館』勁草書房